

「令和5年度第1回高知県社会貢献活動支援推進会議」

開催日時：令和5年7月31日（月）13：30～15：30

場 所：高知県立人権啓発センター 6F ホール

委員氏名：寺尾委員、山本委員、北村委員、木下委員、田副委員、大崎委員、
近藤委員、梶原委員、梶委員、矢田委員、八木委員、間委員

1 開会

2 議事

(1) 会長、副会長の選出

梶委員を会長に、近藤委員を副会長に選任。

(2) 第4次社会貢献活動支援推進計画の進捗について

事務局

資料1により説明。

NPOセンター（間委員）

資料1により説明。

委員

NPOセンターからの説明の中で、令和4年度の実績及び令和5年度の取組予定について伺ったが、今年度の取組予定に新たなものがないように思う。NPOができて二十数年が経つが、SDGsやコロナ、2040年問題など、私たちを取り巻く環境は大きく変わってきている。そのような課題に対する取組が令和5年度の取組に反映されていないのではないか。

また、デジタル化で言えば、高齢の方々が運営している団体では情報発信が上手くできていない雰囲気がある。NPOセンターでもファンドレイザーの派遣等しているが、情報発信やITデジタルの研修及び講師派遣をより多くしてもらいたい。

県の取組の中では、子ども食堂への補助金の交付があるが、補助対象としては、新設された子ども食堂のみなのか、既存の子ども食堂も補助対象となるのかどちらか。

NPOセンター

令和5年度の新たな取組は余りないが、デジタル化セミナー等の開催を新たに行っている。コロナ禍で影響を受けたNPO法人を調査した中で、デジタル化の流れに十分対応できていないという意見もあり、デジタル化の専門家派遣を行ってきたが、8月29日には情

報発信に関するセミナーを開催する。各団体の力量に応じた情報発信の方法を習得できる講座を実施し、専門家派遣にもつなげていければと考えている。

また、コロナ禍や少子高齢化の影響でNPO業務も大きく変化している。全体的な新たな取組としては、後半の議題で皆さんの意見をいただきたい。

事務局

子ども食堂支援事業費補助金については、基本的にランニングコストではなく、備品購入や開設経費、感染症対策経費に充てられている。開設経費というところがメインになってくるが、要綱上は新規の団体に限定しているものではないように思う。

委員

ランニングコストは入っていないため、既存の子ども食堂のやり方を踏襲して、新規の団体がその補助金を活用して必要経費を補助してもらうものか。

事務局

運営経費は1回当たりの上限が8,000円であるため、基本的には初期投資というところがメインだと思っているが、他にも運営経費的などところが入っているため、対象にはなると思う。この補助金については、子ども家庭課が所管しているため、このような意見が出たということはお伝えする。

事務局

昨年度、新規開設した子ども食堂が12箇所となっている中で、子ども食堂支援事業費補助金は44団体に交付しており、必ずしも新規団体ばかりに交付しているというわけではない。

委員

ナツボラの受入れが今年度増えているが、どういった分野やプログラムが増えているか。

また、NPOに対する補助・助成等の情報は、ピッピネットで適宜チェックしているが、国が実施しているIT導入補助金の内容があまりなかった。国の補助金をほしい法人もあると思うので、そういった情報も掲載するよう検討してもらいたい。

市町村と社会貢献団体との協働の推進では、市町村との意見交換会を取組目標としているが、ずっと取り組めていないように思うので、しっかり取り組める内容を検討した方がよいのではないかと。NPOに一番近い行政は市町村であるため、NPOに対する市町村の理解が得られるよう、取組効果ができる内容にしてもらいたい。

NPOセンター

ナツボラの受入増加は、特にこの分野で増加しているということはなく、各分野が全体的に増加している。福祉分野ではコロナが終わったこともあり、制限されていたボランティアの受入れが回復してきている。また、子ども分野には学生が多く参加していることが口コミ等でも分かってきており、子ども分野の受入れ団体も増加傾向にある。

会長

市町村協議の取組ができていないことについては、私も気になっている。今後の対応や改善点について伺いたい。

事務局

市町村とNPO団体との意見交換会は、昨年度も企画したものの、参加者がほとんどいなかったため、他の講演会と抱き合わせで開催するように工夫したが、それでも参加者が集まらなかったため開催できなかったもの。市町村では、NPOに委託したり、補助金を出している課がそれぞれある一方で、NPOの担当課がはっきりしていないことも原因としてある。次期計画では、市町村とNPOとの連携が進むよう、権限移譲している3町からも意見を聞きながら、新たな取組を検討していきたい。

参考資料8には、次期計画の基礎資料とするための市町村向けアンケートを付けている。問3ではNPOとの連携における課題、問4では連携を進めるためにNPOに望むものを調査しており、この結果も踏まえて、より効果的な取組目標を定めていきたいと考えている。

委員

ナツボラへの参加者数が随分増えているように思うが、希望先が集中することで実際の活動につながらない場合があることが課題として挙げられている。この参加者が多いもの、実際の活動につがっていないものはどのようなものか伺いたい。

また、経営者団体を通じた社会貢献活動の周知については、できることがあれば協力したいと思っているのでお知らせいただければ。

NPOセンター

ナツボラの参加者と受入れ団体とのマッチングについて、高校生の関心は子ども分野に集中しており、高知市の保育園では受入れが出来ないほど希望が集中していた。一方で、福祉系を希望する高校生は減っており、高齢者、障害者系のところは受入れが鈍くなっている。子ども分野等でマッチングがうまく出来なかった場合に、別の分野へ流れていくということが出来ていないため、学生にどう魅力を伝えていくかということは課題に感じている。また、学生はナツボラが終われば日常生活に戻ってしまい、活動が継続しないこと

が多い。ナツボラの経験が未来につながり、継続的に活動してもらえるよう、どう意義を持たせるかが課題と考えている。ナツボラの他にも、ボランティアガイダンスというボランティアをしたい人と受け入れたい団体の出会いの場を設けているが、そこにナツボラに参加した高校生が来てくれることもあり、継続という仕組みも一部出来ているのではないかと思う。

委員

第4次計画で掲げている目標設定があり、それに対する具体的な取組の成果報告をしてもらったが、大本の数値目標の結果を踏まえて次期計画の話し合いをする方が実になるかと思うがどうか。

事務局

第4次計画の数値目標に対する結果は、令和4年度時点で分かっているものについては資料3に載せているが、現時点で把握できていない部分もある。今後、NPO法人や市町村等へのアンケートを実施し、数値目標に対する成果を確認のうえ、この場でご報告する。第5次計画の成果目標や具体的な取組に関しては、次回の推進会議において皆さんの意見を踏まえて検討していきたい。

(3) 第5次社会貢献活動支援推進計画の策定に向けて

NPOセンター

資料2により説明。

事務局

資料3及び資料4により説明。

委員

先程の意見にもあったが、市町村との連携が非常に希薄ではないか。NPOと市町村との連携が取れておらず、相互理解が足りていない部分がある。次期計画においては、市町村との連携が進むような取組を行ってもらいたい。令和3年度の高知県集落調査では、集落の自治力が弱まっているとの評価もされており、人口減少していく中で地域の意見も少なくなってきた。限界集落に近い集落が多くある状況を考えると、県民全体で高知県の維持を図っていく必要がある。昨年の秋には、県や市町村、県社協、市町村社協が共生社会づくりの共同宣言を出している。広く理解を求め、県民の関心を捉えていくことで、住民主体の地域づくりをしていくという方向性が次期計画には必要だと考える。

事務局

市町村とうまく連携出来ていない部分は課題だと認識している。市町村を対象に、社会貢献活動に関するアンケートを実施する予定のため、その結果を踏まえて取組内容等を検討していきたいと考えている。

また、中山間地域の振興というのは県の重要施策の一つであるため、中山間地域対策課が策定する予定の中山間地域再興ビジョンともベクトルを合わせながら、次期計画を策定していきたいと考えている。

委員

資料3のスケジュール表には、NPO等アンケートの実施が8月から9月にかけて実施となっているが、このアンケートの中身というのは資料として入ってる分か。

事務局

参考資料6。

委員

これはどのようにアンケートを採るのか。

事務局

NPO法人に郵送するようにしている。

委員

11月に第2回の推進会議とあるが、そのときにはこのアンケート結果と、第5次計画の中身についても検討がされるということか。

事務局

今回の骨子に肉付けをした素案についてご議論いただき、皆さんの意見も踏まえて、修正し、正案としていきたいと考えている。

委員

1月にパブリックコメント実施と書いてあるが、これは何に対してどういう形で行うものか。

事務局

県のホームページに案の方向を掲載し、県民の皆さまから広く意見をいただくもの。

委員

パブリックにコメントをいただくという広報としてはいい話だが、余り意見が出ないと聞く。実際に意見が返ってくるものなのか。

事務局

県民の皆様の関心度合いによると思うが、かなり意見が出たものもあり、必ずしも意見が少ないというわけではない。

委員

スケジュールでは、パブリックコメント実施後の推進会議が2月になるとのことだが、このときにはそれなりに具体的なものができるということによいか。

事務局

基本的にはパブリックコメントを経て、3回目の推進会議で計画の内容は決定となるが、パブリックコメントを行う段階では、推進会議として最終的に決まったものをパブリックコメントしていきたい。

委員

パブリックコメントで、県民から意見が出た場合には、それには対応していくということによいか。

事務局

ご意見の内容に応じて必要な対応をしていく。

委員

重ねてになるが、私たちを取り巻く環境が大きく変化していることを踏まえ、次期計画では基本方針等の追加を検討いただければと思う。

委員

ナツボラの参加校数、延べ参加者数が増加していることは良いことだと思う。大学への進学に当たり、学校からボランティアをなさいと言われることもボランティア参加のきっかけにはなっていると思うが、ナツボラの質として、もう少し学生が自主的にボランティアに参加できる仕組みがあったら良いと思う。

また、市社協で実施している「こうち笑顔マイレージ」もボランティア制度としてあるが、ナツボラと同じボランティアであるため、一本化ができれば利用する側もやりやすいと思う。

NPOセンター

ナツボラの質については課題に感じている。学校によっては、ボランティア参加が夏休みの課題として出ていることもあり、本人のモチベーションが低いまま参加すれば、せっかくボランティア参加のきっかけがあっても、今後の継続的な活動にはつながらないと思っている。センターとしても、学生に対してはナツボラの冊子の配布のみになっているため、事前のオリエンテーションを実施して、次につながるような仕組みづくりを、教育委員会や高校等と連携していきたい。県社協の中には、福祉人材センターがあり、福祉人材の確保に力を入れているため、そういったところとも連携して取り組んでいければと思っている。

委員

ある事業で一緒に協働していこうと思っている窪川のNPOがあり、12年ほどすごく良い活動をしているが、パンフレットやホームページ等による情報発信が全くできていない団体がある。一緒に事業をするに当たって、こちらがパンフレットやホームページを作成することはできると思うが、ホームページはその後の運用ができないのではないかと思う。次期計画の中にもデジタル化の話が出てきているが、今後そういったNPOが取り残されていくのではないかと危惧している。そういった団体が情報発信できる場としてNPOセンターのピッピネットがうまく活用できないか。

NPOセンター

ピッピネットはもっと活用していただければと思っている。仰られたようにホームページを作りたいが作るまで至らない団体は、必要最低限度の情報はピッピネットにあるため、団体のホームページのURLをピッピネットのページにしておけば、多くの方が見るチャンスも広がるかなと思う。写真の掲載など、新たな情報を掲載するにはコスト等との相談も必要になるため、また検討はしてみたいと思う。

事務局

資料4として、次期計画の骨子案をお付けしている。先程、事務局からも説明させていただいたが、計画目標の第1の削除や、第3の各主体の役割の削除ということで事務局案をお示ししている。例えば、基本方針の部分は、資料2の5ページ目の右側にお示しているものに変更するよう記載しているが、言葉だけで見ると、「地域の課題解決につながる取組」が削除され、「社会貢献意識の向上」に変更となっている。地域課題解決には、先程の話にもあった子ども食堂や中山間地域の関係も含まれているため、ここは残した方が良いのではないかと、ここは削除した方が良いのではないかなど、次期計画の組立ての部分についても皆さまのご意見を伺いたい。

会長

今回の会議で、今後5年の計画を立てる議論をするには少し時間的にも十分ではないという気がしている。この後まだアンケートについての説明もあるため、例えばそれぞれの委員の皆さんにこの計画の方向性に向けた意見を別途いただくというのはどうか。

事務局

次の会議が11月末ということもあり、期間があるため、本日発言できなかった部分など、ぜひご意見をいただければと思う。

会長

もし委員の皆さまもそれで良ければ、事務局のほうでコメント用紙等を用意いただいて、より充実した議論を交わせたらと思うがいかがか。特に異議はないか。

(異議なし)

事務局

第2回の会議のときに、この計画の素案というのをお示しすることになるが、素案のたたき台のような、手前の段階のものも事前にお示しした方が、次回の会議でご意見をいただきやすいと思うので、そういったこともできればと思う。

会長

承知した。またタイミング等も検討いただければと思う。

(4) その他

事務局

参考資料5以降により説明。

3 閉会

以上